



2025年9月発行 | VOL.3

THE TOBISHIMA TIMES

編集・制作：島づくりディレクター 服部 帰蝶

連絡先：とびしま総合センター TEL 95-2001



飛島の夏がやってきました！ということで『THE TOBISHIMA TIMES』第3弾をお届けします。今回はイベントの企画・運営に加え、島内でのさまざまな活動や他のイベントへの参加など、充実した夏となりました。

マーメイドスイム体験イベントの開催

大盛況の8日間、多くの参加者が人魚に変身

8月9日～18日（11・12日を除く）の8日間、飛島海水浴場にて『マーメイドスイム体験イベント』を開催しました。マーメイドスイムとは、人魚の尾びれを身につけて泳ぐアクティビティで、近年SNS映えや非日常体験として注目を集めています。これまで都市部や南国リゾートでの実施例はありましたが、東北の離島での開催は極めて珍しく、透明度の高い飛島の海という地域資源を活かした新しい試みとなりました。

今回のイベントでは、私が企画立案から安全管理計画、広報（SNSやチラシ、メディア発信）、器材調整、参加者対応までを一貫して担当。当日は送迎や安全講習、体験指導、写真・動画撮影などを行い、終了後には撮影データ送付やアンケート回収も行いました。

参加者は子どもから大人まで幅広く、遠くは東京都・神奈川県からはるばる参加があり、全日予約希望が入るほどの盛況となりました。子ども参加時にはセンター職員が陸から安全管理をサポート、徹底した安全体制のもと開催し、全ての参加者が事故なく無事に体験を終えることができました。

参加者からは「マーメイドになれて非常に楽しかった」「飛島の海がとてもきれいだった」といった感想が寄せられ、島内外注目のイベントとなりました。



今後の展望

今年度は『需要調査・実証実験』を目的に実施しましたが、来年度以降はより良い仕組みを取り入れ、地域の活力へと結びつけていきたいと考えています。

また、マーメイドスイム体験だけでは継続的な活動基盤を築くことが難しいため、飛島の魅力を生かした新たな企画づくりにも取り組んでいきます。これにより、観光資源としての発展だけでなく、地域と外部のつながりを深める仕組みづくりを進めていきたいと考えています。

イベント開始前の安全確認

何事も安全第一を徹底

時はイベント開始前に戻り、イベント参加者の安全を守ることを目的に海中調査を行っていました。具体的には、岩場が多い箇所や水深の把握、海中や陸の生物による危険性の確認などを行い、起こり得る事故やケガを想定したうえで、有事の際の対応フローを整理しました。

調査を進める中で、当初は見られなかった有毒クラゲの出現や、大量のアブの発生など、環境の変化に応じて注意点が増えていきました。

こうした経験を通じ、イベントにおいてはより“事前の安全確認と準備”がいかに重要であるかを改めて実感しました。



マーメイド最終日、海中ゴミ拾い

海をきれいにする取り組み

マーメイドスイム体験イベントの最終日には、飛島海水浴場にて『海中ゴミ拾い』を行いました。

海水浴場に漂着するゴミは浜辺で目にするものが多いですが、海中にとどまっているものも少なくありません。そこで、イベントを締めくくると同時に、海をきれいにするのと実際にどのようなゴミがあるのかを確認することを目的としました。

実際に拾い上げたのは、ビニール袋や食品包装、プラスチックのフタ、漁具の一部、流木など大小さまざま。中には割引シール付きの食品包装もあり、改めて“日常の消費行動と海ゴミ問題は直結している”ことを実感しました。

私は今年、海ゴミの現状について学ぶ機会を得ていたこともあり、今回の取り組みはその学びを自ら実践し、地域の自然環境を守る行動につなげるものとなりました。

ゴミの発生要因はさまざまですが、一人ひとりが意識することで改善できる部分も多いはず。 「自分が何気なく使ったものが、海を汚す一因になっていないか？」と考えてみることから始めるだけでも、未来は大きく変わっていきます。マーメイドスイムを通じて海の魅力を伝えると同時に、環境保全の大切さを考える夏にもなりました。



草刈りもオンシーズン

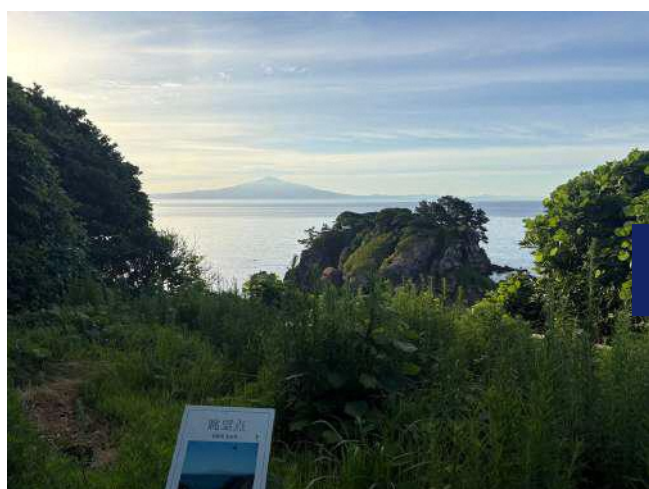
島内での草刈り活動

イベント準備や運営と並行して、島内各地で草刈り作業にも取り組みました。

4月の来島以降、センター職員や島民の皆さんと一緒に様々な場所で実施しており、夏場は日中の暑さを避けて早朝4時や5時に集合して作業を始めることもありました。

特に田下海岸や鼻戸崎展望台、南灯台では草が生い茂り、道が見えなくなってしまうほどで、刈り払い機を使いながら通路を確保しました。また、農免道では木の枝が道路に大きく張り出していたため高所の枝を切り落とす作業も行いました。さらに夏場には大量のアブが発生し、避けながらの作業は想像以上に大変で、自然の厳しさを体感しました。

こうした活動を通じて、島に暮らすためには草刈りなど環境整備が欠かせず、生活そのものを支える大切な仕事であることを実感しました。同時に、平均年齢70代とは思えないほど精力的に作業をこなす島民の皆さんの元気に驚かされ、「この島で暮らすには体力とたくましさが必要だ」と改めて感じました。



除去後



除去後



除去後



島民活躍！スポーツ・健康イベント

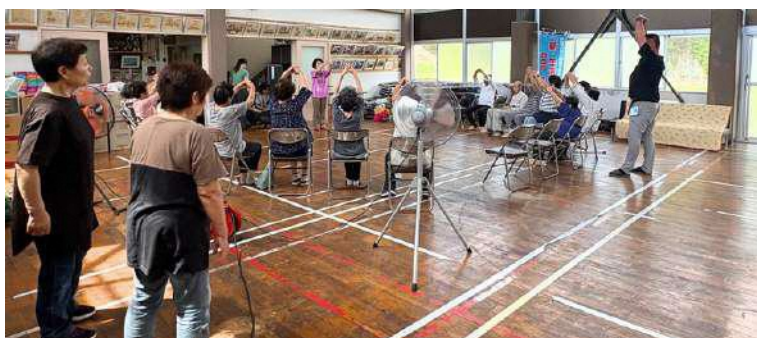
競技へ参加するもののセンター職員苦戦

8月には、とびしま総合センターで酒田市スポーツ推進委員会主催のイベントと、飛島学区社会福祉協議会主催のイベントの2つが行われました。私は、前者ではフロアカーリング、後者では輪投げにセンター職員たちと一緒に挑戦しました。

実際にやってみると意外と難しく、若者が有利かと思いきや、島民の皆さんがトップ3を独占！まったく歯が立ちませんでした笑

輪投げの後、島民の皆さんはミュージックセラピーに取り組み、かき氷を食べながら楽しく会話されていました。

島の皆さんが元気に楽しそうに取り組まれている姿に、私自身も大いに刺激を受け、心温まる、忘れがたいひとときとなりました。



空からやってくる飛島の守り人の裏方

ドクターヘリ・海保ヘリの着陸を支える、島の安心の舞台裏

飛島には時折、ヘリコプターがやってきます。病人やけが人を本土の病院に運ぶドクターヘリや、海上保安庁・自衛隊の訓練のためのヘリです。

私が着任してからは、ドクターヘリや海上保安庁のヘリの離着陸に立ち会い、車両通行止めを担当しました。安全な着陸のために、影から支える役割です。

ドクターヘリが来島する際には、島内の看護師、消防職員、警察官、市職員が連携して対応しており、私もその一員として関わるなかで、有事に備えた島の体制の力強さを実感しました。決して目立つ役割ではありませんが、島の安心を守る一助となれることを誇らしく感じています。



琢成小学校「アントレプレナーシップDAY」への参加

子どもたちと課題解決を考える

琢成小学校で、全国から起業家や教育関係者が集まり、全校児童とともに課題解決を考える体験型イベント『アントレプレナーシップDAY』が7月に開催、島づくりディレクターとして出席しました。

この取り組みは、子どもたちが失敗を恐れず挑戦する姿勢を育み、地域や社会をより良くするための考え方を身につけることを目的としています。

私は起業家の枠に入り、1・3・6年生の児童3名と保護者とともに1つのチームを担当しました。開始前は子どもたちの発想が出にくいのではと考えていましたが、いざ始まると次々と意見が飛び出し、驚くほど積極的な姿を見せてくれました。

私たちのチームでは、日常的な課題として「スポーツをすると汗疹ができて肌荒れしてしまう」「夏季は熱中症になる可能性が高い」といった意見が挙げられ、それを踏まえて解決策として『肌荒れや熱中症を防ぐ新しい肌着や体操着を開発する』という案にまとまりました。発表の場では安川副市長から「実現可能で、自分も欲しいと思う案」との評価で、子どもたちは大変誇らしげでした。

未来を担う子どもたちが地域課題を真剣に考え、かたちにしていく姿に触れ、教育的な取り組みの重要性を改めて実感しました。



富士通Japan社員らと地域課題解決ワークショップ

多くの新たな視点を学ぶ

7月にワーケーションで来島した富士通Japan株式会社の社員の方々が、酒田市をテーマにした地域課題解決ワークショップを行い、私も参加しました。

内容は、地方が抱える課題やまちの活性化について、AIを一部活用しながらアイデアを出し合うもので、普段とは違う視点や考え方に触れることができ、大変良い刺激となりました。

私自身も日頃から飛島や酒田、庄内地方の将来について考える機会は多いのですが、一人で考えているとどうしても発想が偏りがちになります。今回、他の方々と一緒に意見交換することで、新しい気づきや広がりを得ることができました。



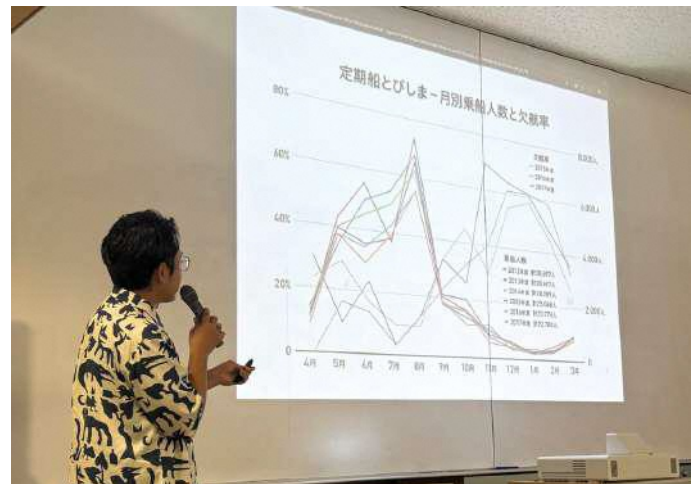
大学での講義登壇

移住後の体験を語る

6月末に東北公益文科大学の呉尚浩教授の講義に参加し、飛島に移住してからの実体験についてお話しする機会をいただきました。

講義では、合同会社とびしまの松本友哉さんから飛島の現状と今後の展望について説明があり、その流れの中で“移住して間もない立場から見える島の姿”として私の話を加えていただきました。

質疑応答では、想定以上に鋭い質問が学生から寄せられ、地域に深く関わって活動する学生の姿勢にも触れることができました。私自身も刺激を受け、大変有意義な時間となりました。



とびしまクリーンツーリズムのサポートに

親子達と一緒に海ゴミの勉強

7月下旬から8月中旬にかけて、1泊2日で合計5回「とびしまクリーンツーリズム（以下、TCT）」が開催されました。

TCTは、山形県庄内総合支庁が主催する、親子で海ゴミ問題を学ぶ取り組みで、合計16名の方が参加しました。現在合同会社とびしまの職員が飛島島内でのプログラムを実行しており、私はサポートスタッフとして関わりました。

プログラムでは、1日目にチームごとのワークショップやシュノーケリング・星空観察を通じて飛島の魅力を体験し、2日目にはソデの浜での海ゴミ拾いと座学を行いました。私は直接講師を務めるわけではありませんでしたが、常に参加者の安全を見守り、とくに屋外活動の際はAEDを携帯して随行しました。裏方の立場ではありましたが、安心して学び・体験できる環境を支えることが、自分に与えられた大切な役割だと感じました。

また、事前には1泊2日の研修を受け、海ゴミ問題に関する基礎知識を学び直しました。参加した親子が真剣に学び、楽しみながら行動に移す姿を間近で見て、改めて「教育と体験を結びつけることの重要性」を実感しました。

